

FZ750

1985年 / 市販車

国内メーカーは750ccを最大排気量とする自主規制を1980年代後半まで行っていたため、各メーカーはこのクラスのモデル開発に注力していた。

エンジン性能向上と車体の操縦性・安定性向上を相乗的に追求する、ヤマハ独自の設計思想である「ジェネシス」に基づいた750cc スーパースポーツとして開発された。従来のエンジン技術の限界を超える世界初の5バルブを採用したDOHC・並列4気筒エンジンを45度前傾させて搭載するなど、その設計開発の成果は、市販車をベースにした車両で参戦した鈴鹿8時間耐久レースやデイトナ200マイルレースでも証明され、他の排気量クラスやカテゴリーへと波及。ヤマハ4ストロークモデルを飛躍的に進化させるキーテクノロジーとなった。

また、当時のトレンドであった前輪16インチの採用を行うが、安定性を伴った自由自在な走行感覚は他社と一線を画し、「ハンドリングのヤマハ」に相応しいものだった。

フロントマスクの特徴である2灯式ヘッドライトは、当時耐久レーサーとしてユニークな存在であった「elf」にインスパイアされデザインされた。

